

第6章 関数



[CTRL]キー

を押しながらクリックすると別ウィンドウでYouTubeがみれる

第6章 関数

関数

関数とは

- 処理をひとまとめにしたものです。
- 『引数』を受け取ることができます。
- 処理結果を『戻り値』として返すことができます。
- 『引数』と『戻り値』は省略可能です。



関数の書き方

- まずは引数・戻り値ともに省略したパターンを確認しましょう。

文法 引数・戻り値ともに省略したパターン

```
function 関数名() {  
  処理;  
}
```

文法 関数の呼び出し

```
関数名();
```

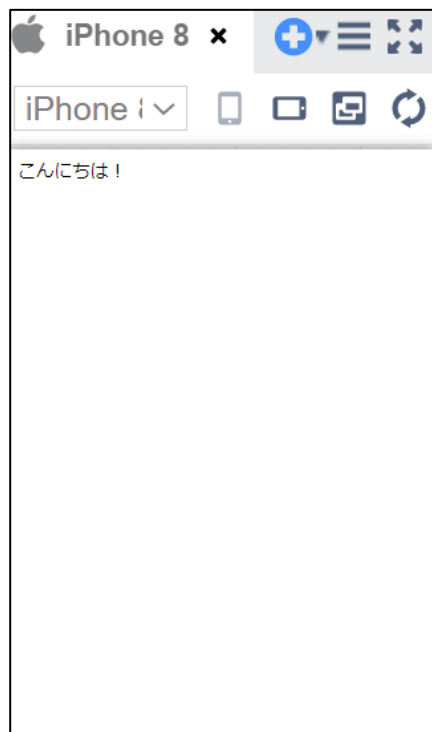
第6章 関数

実習①

準備

- クラシック・テンプレートを使用するか、サポートページから本章のひな形をインポートして下さい。

実行結果



実習

- scriptタグにif文を使ったプログラムを追記して下さい。

```
<script>
// 関数を作る
function sayHello() {
    document.write("こんにちは！");
}

// 関数を実行
sayHello();
</script>
```

第6章 関数

引数がある関数

引数がある関数の書き方

- 関数には引数を渡すことができます。
- 引数はカンマ区切りで複数指定することも可能です。

文法 関数の定義 (引数あり)

```
function 関数名(引数を入れる変数名) {  
    処理;  
}
```

文法 関数の呼び出し

```
関数名(関数に渡す引数);
```

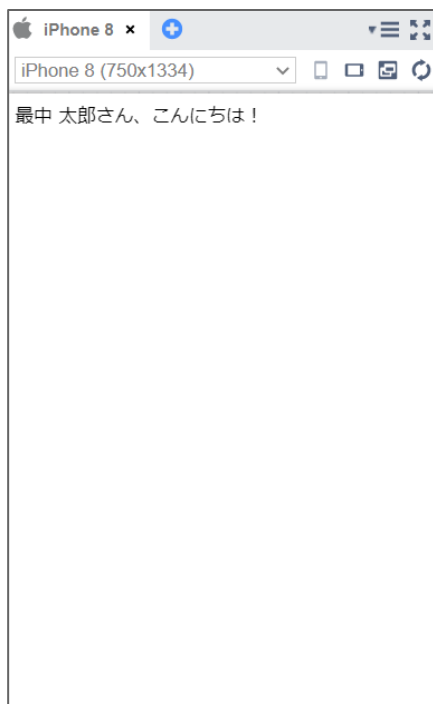
第6章 関数

実習②

準備

- 先ほどのプロジェクトを変更します。

実行結果



実習

- scriptタグにif文を使ったプログラムを追記して下さい。

```
<script>
  // 関数を作る
  function sayHello(name) {
    document.write(name + "さん、こんにちは!");
  }

  // 関数を実行
  sayHello("最中 太郎");
</script>
```

第6章 関数

戻り値がある関数

戻り値がある関数の書き方

- 関数は処理結果を戻り値として返せます。
- 戻り値は一つしか返せません。

文法 関数の定義（戻り値あり）

```
function 関数名() {  
    処理;  
    return 戻り値;  
}
```

文法 関数の呼び出し

```
var 戻り値を入れる変数名 = 関数名();
```

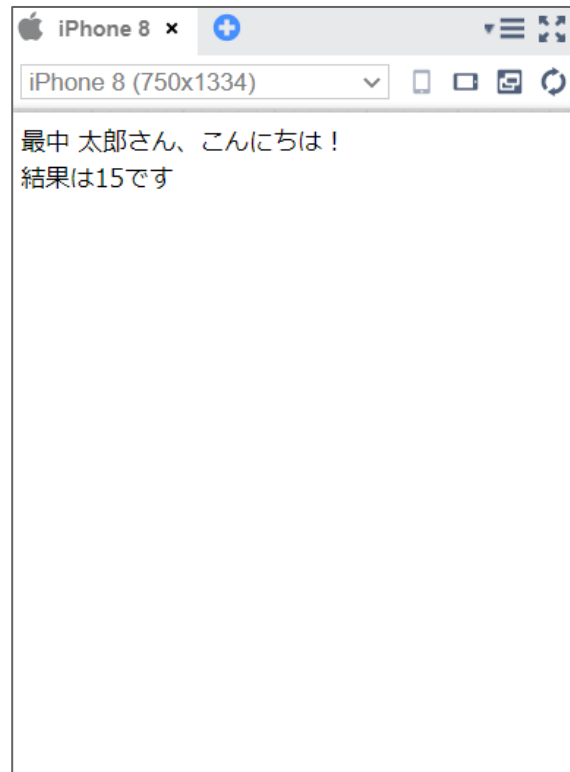
第6章 関数

実習③

準備

- 先ほどのプロジェクトを変更して下さい。

実行結果



実習

- scriptタグにプログラムを追記して下さい。

```
// 戻り値を返す関数
function calc() {
    var num = 1 + 2 + 3 + 4 + 5;
    return num;
}

// 関数を実行し、戻り値を受け取る
var result = calc();
document.write("<br>");
document.write("結果は" + result + "です");
</script>
```

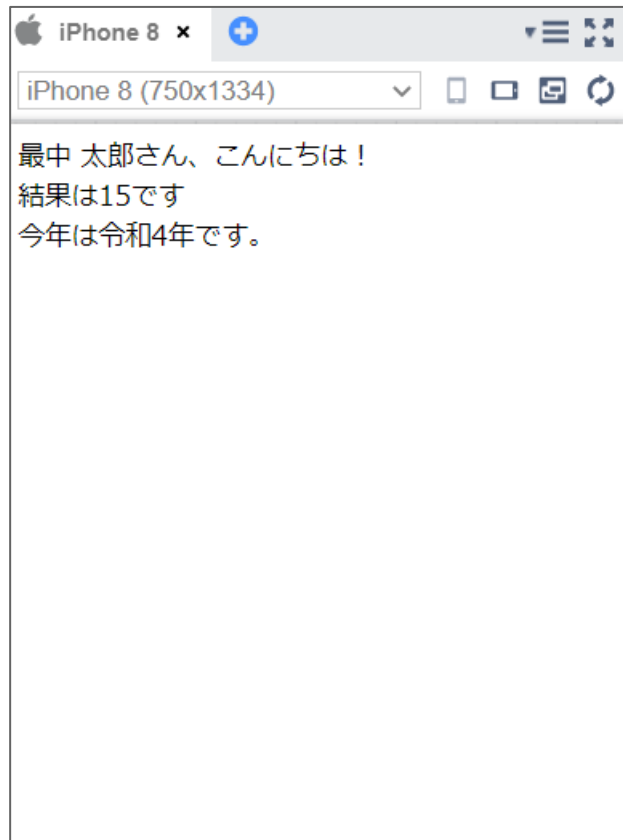
第6章 関数

実習④

準備

- 先ほどのプロジェクトを変更して下さい。

実行結果



実習

- scriptタグにプログラムを追記して下さい。

```
// 西暦から和暦に変換する
function convertYear(western) {
    var japanese = western - 2018;
    return japanese;
}

// 今年が西暦何年かを取得する
var date = new Date();
var year = date.getFullYear();
// 和暦に変換
var japaneseYear = convertYear(year);
document.write("<br>");
document.write("今年は令和" + japaneseYear + "年です。");
</script>
```

実習④を改良し、平成〇年かを表示するプログラムにしてください。

平成は1989年からスタートしました。（令和は2019年から）

入力ができたら、メニューバーの保存ボタンを押してください。保存されたら、「Web公開」して発行されたURLを進捗シートにコピーペーストしてください。